

CB工法における作業スペースについて

継手はなるべく溶接にしやすいところで鉄筋の直線部とし、継手部での曲げ加工は行わないこととする。

鉄筋継手の溶接における床面ならびに壁面、あばら筋や帯筋等からの最小必要距離は以下の図に示すとおりである。

図に示す以外の条件の場合は、適宜溶接作業者と協議を行うものとする。

水平鉄筋継手の場合 下向き溶接(梁筋)	鉛直鉄筋継手の場合 横向き溶接(柱筋)
<p>200mm以上</p> <p>あばら筋等の障害物</p> <p>300mm以上</p> <p>壁</p> <p>200mm以上</p> <p>60mm以上</p> <p>床</p>	<p>コン天</p> <p>500mm以上</p> <p>帯筋等の障害物</p> <p>300mm以上</p> <p>壁</p> <p>500mm以上</p> <p>60mm以上</p> <p>床</p>